

民主島根

2018年
9.23
第1320号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

沖縄県知事選、参院選・県議選必勝へ 力を総結集して安倍退陣を

松江 仁比 参院議員 迎え決起集会開く

日本共産党島根県委員会は12日夜、松江市で仁比そうへい参院議員を迎え、来年の参院選と県議選での市民と野党の共同の勝利と党躍進に向けた集会を開きました。立ち見が出るほどの会場いっぱい参加者が集まりました。

仁比氏は、福住ひでゆき参院鳥取・島根選挙区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議の必勝を訴え、「みなさんの力を総結集させ、安倍政権を退陣に追い込もう」と呼びかけました。

仁比氏は豪雨被災地などを訪ねる中で、多くの市民から安倍政権の暴走を止めてほしいとの声が寄せられているとし、「強権政治に対して民主主義



決意を固め合う(左から)大國、尾村、福住、仁比の各氏ら(松江市)



仁比そうへい参院議員は13日、後藤勝彦県委員長らと松江市の大型商業施設前で演説しまし

の旗を掲げ、毅然としてたたかってきたのが日本共産党だ」と強調し、党の躍進を訴えると大きな拍手が起りました。

各候補が「若い世代の声を国政に届けたい」(福住氏)、「島根原発を廃止させる」(尾村氏)、「国いのなりの県政をただす」(大國氏)と決意表明しました。

原発即時ゼロの政治に 松江 仁比氏が街頭から訴える

た。(写真)

仁比氏は、北海道地震による停電で泊原発が外部電源を失い、非常用自家発電で燃料プール内の核燃料を冷やしていた問題を示し、「災害大國、日本で原発ほど危ない電力はない」と指摘。「再生可能エネルギー、地産地消のエネルギーを地域ごとに整備する。これこそが政治の責任だ」と述べ、世界の主要国に逆行して原発に固執する安倍政権を批判しました。

安倍政権に終止符を 尾村県議迎えつどい

党松江女性後援会
松江市の日本共産党女性後援会は5日、尾村利成県議を迎え、つどいを開催しました。19人が参加しました。(写真)

尾村氏は「議員は憲法にのっとって議会活動している」とし、国民の負託を受けた国会議員がまず順守すべきは憲法だと強調。安倍政権が9条改憲に執着し、憲法25条の示す生存権を踏みにじっていると批判。「市民と野党の共同と党の躍進で安倍政権を終わらせよう」と呼びかけました。

イージス・アショアを考る 憲法を活かす市民の会 藤井共同代表が講演

「沖縄知事選勝利へ連帯する講演のつどい」が15日、松江市で開かれ、市民ら60人が参加しました。

「沖縄と連帯する島根の会」(高野孝治代表世話人)の主催。

つどいでは「イージスアショアを考る」と題して、憲法を活かす市民の会やまぐち共同代表の藤井郁子さんが講演。藤井氏はミサイル迎撃システム



沖縄連帯と連帯する島根の会

「イージスアショアについて、▽地域的に見えない電磁波の恐怖▽近くに家や学校があり、真っ先に攻撃される危険に言及。背景に対話より核抑止力に執着し、改憲で軍事大國をめざす安倍政権の強行姿勢がある」と指摘。最後に「防衛省が開催した住民説明会では、どこでも圧倒的多数の住民が反対し、切実な不安の声を上げている」と話しました。(写真)

沖縄知事選の支援から戻った上代善雄氏は、選挙戦の様相を報告し、「物心両面の支援を」と呼びかけました。

交流では、中国電力が新規稼働を狙う島根原発3号機への不安が語られました。尾村氏は、県議団が取り組んだ市民アンケートでは8割が原発の稼働に反対だったと報告し、「原発ゼロの島根をつくるために頑張りたい」と話しました。参加した女性(66)は「共産党には生存権が保障される社会の実現に向けて頑張りてほしい」と話し、別の女性(84)は「政党のことを知る機会が少ないう」と語りました。

鼓動

「ちいさいだるまちゃん」とちいさいでんぐちゃんがあそんでいました。娘が幼かった頃に買ってもらった絵本「だるまちゃん」とでんぐちゃん」の描き出しだ。最近、もうすぐ2歳になる孫を預かることが多くなり、閉まってあった絵本を引っ張り出した▼作者は加古里子(かこさとし)。「だるまちゃん」シリーズや科学絵本を描き続け、今年5月に92歳で亡くなった。東京大学工学部卒業、昭和電工の技師を勤めながら、地域の恵まれない子どもたちのセツルメント活動を通じて絵本作りを始めたという異色の絵本作家だ▼加古里子の絵本がどうして時代を超えて多くの子どもの心に愛されたのだろうか。「教えてあげるといふ感じではなく、自分が知りたいことを子どもの気持ちになつて描いていた」と振り返るのは、長年、親交のあった中村桂子氏(JT生命誌研究館館長)▼戦中、航空士官をめざすものの、視力が悪く断念。その一方で士官になつた友人たちは特攻で相次いで戦死。加古さんは「死にはぐれた」と自己嫌悪に陥つた。戦後、大企業に就職したものの、「なぜ自分は国策の誤りを見抜けなかったのか。未来に生きる子どもには自分で判断できる賢い人間になつてほしい」と▼自らの戦争体験が絵本作家への原点にあつたのだ。加古さんと親しかった生物学者の福岡伸一さんは「戦争で同級生の多くが帰らぬ人となつた。かこさんの細やかで優しい絵の後側に、いつもどこか寂しげで、哀しみを含んだ光と風があるのは、このときの原風景が含まれているからだ」と指摘する。(吉)